

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070200821		
法人名	株式会社七施		
事業所名	グループホーム大正館 ユニットⅠ		
所在地	北九州市若松区花野路1-2-5		
自己評価作成日	平成31年1月25日	評価結果確定日	平成31年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成31年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとして本来あるべき姿を求めているだけでなく、国の方針をしっかりと理解しながら、できるだけ『終の棲家』としての機能も果たせるように、医療機関や訪問看護ステーションとの連携に努めている。また、生活保護指定機関として積極的に生活保護者の受入れもを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1年前に運営主体が変わり、物品購入や処遇改善が行われ明るく発言しやすい職場になり、入居者と職員が笑い合う場面が多くなり、全職員で入居者の穏やかな日常生活支援に取り組んでいる。入居者とソファに座って話す時間を確保し、生活の場面ごとに思いや意向の把握に努め、居室で寝てばかりだった入居者もリビングで過ごしたり、羞恥心の強い入居者は車椅子に鈴をつけてトイレ介助がスムーズになり失禁が減っている。新人教育もマンツーマンで、職員たちのチームワークができてきた。また、敷地内に新しく開設した系列施設のナーシングホームに2名の方が転居され、『終の棲家』としての機能を果たせるよう研修に参加している。今後も運営推進会議での情報交換や地域との交流を継続しながら、全職員が一丸となった新生ホームづくりが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム大正館 ユニット I**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの概念が崩壊している現在においては困難である、最低条件として、入居者は北九州市民でなければならない旨は共有している。	運営主体が変わったが、新管理者とともに職員は入居者の穏やかな日常生活支援に励んできた。物品購入や処遇改善が行われ明るく発言しやすい職場になり、入居者と職員が笑いあう場面が多くなっている。	新生大正館を地域の方々に認識してもらおう為にも、入居者と職員がひとつになれる理念や目標の作成を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会を年に2回開催。自治会や町内会にも案内しているが、参加にはいたっていない。	継続している近隣の出張コンビニやパン販売は好評である。ハーモニカ演奏のボランティアの方や近所からの挨拶や声かけがあり、時には散歩中の犬に触れて入居者が笑顔になる場面もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて参加される自治会長や民生委員の方に情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	左記の通りに実践している。	自治会長の交代で参加は少ないが、民生委員や家族などの出席で定期的開催され、議事録が事務室前の棚に公表されている。活動報告では、散歩に適した近くの場所の情報を参加者から提供していただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	変更届や事故報告書は、市の担当部署に速やかに提出している。	市担当者の紹介で入居された方の金銭管理についてこまめに連絡を取ったり、入居後杖を振り回すなどの行為があった方は、地域包括支援センターと連携して適切な環境に転居させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	ユニット出入り口のドアに鈴をつけているが、日中は玄関の施錠はしていない。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、ミーティングで報告し、気づいたことはその都度話し合っている。外部研修に参加し、伝達研修で言葉による拘束の理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者には適切に対応している。	現在1名の入居者が成年後見制度を利用しているが、後見人の訪れは少ない。日常生活自立支援事業の活用はないが、家族がいない入居者が増え、法人代表が身元引受人となっている方も数名ある。	成年後見制度や日常生活自立支援事業のパンフレットを整備し、必要時、閲覧や説明ができるようお願いいたします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記の通りに実践している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	左記の通りに実践している。	入居者の半数は身寄りがなく、12月に開催されたグループホームだけの家族会は2家族5名の参加であった。運営主体の交替は、家族や入居者が不安にならないよう説明会を行っている。意見箱を設置し、電話での家族からの意見にも丁寧に対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	左記の通りに実践している。	管理者は必要時ミーティングを行い、率直な意見交換をしている。エアコンの修理やシャワーチェアの買い替え、手袋などの備品を揃えたり、記録物の整理で記録時間が短縮し、職員たちが働きやすい環境や入居者に寄り添う時間を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左記の通りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	左記の通りに配慮している。	職員募集は口コミや広告で行い、30代から40歳代を中心に60代の男女の職員が働いている。新人教育はマンツーマンで行われ、有休や希望休が取りやすく、全職員の処遇が改善され、休憩室で1時間の昼休みを取っている。この1年は残業がなくなり子育て世代の職員も働きやすく、離職や欠勤がない職場となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	左記の通りに取り組んでいる。	管理者は職員がより良い介護ができるよう、職員の待遇改善に努め環境を整え、介護責任者が言葉かけなど気づいた際に指導し、職員の接遇向上で、入居者の穏やかな日常生活を支援している。	人権に関する外部研修への参加をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	左記の通りに進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループ会社との連携にて努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	左記の通りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	左記の通りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用ができない。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	左記の通りに配慮している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	左記の通りに関係づくりに努めるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	難しい。	地元からの入居が少なく身寄りのない入居者が多いため、家族の来訪が少なくなっている。数年来1・2か月に1回来所されるハーモニカ演奏のボランティアの方や訪問理美容の方などと、会話を楽しむ入居者もあり、馴染みとなっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	左記の通りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	左記の通りに努めている。	記録をチェックリストにして、入居者とともにソファに座って話す時間を確保し、生活の場面ごとに思いや意向の把握に努めている。職員たちは情報や意見を交換しながら、チームケアに努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	左記の通りに努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	左記の通りに努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	左記の通りに作成している。	職員の気づきや情報の交換がアセスメントとなり、具体的支援の在り方も話し合っている。足に水泡ができて歩行できなくなった入居者は、臥位の時間を増やしてうなだれた首を起こせるようになっている。	日頃のかかわりで達成されている支援結果と介護計画を連動させ、チームで作る介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	左記の通りに実践している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	左記のようにには実践できていない。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	左記の通りに支援に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	左記の通りに支援している。	全入居者が2週間に1回の協力医による往診を受け、往診のない週でも敷地内の系列施設の往診があるため、毎週診察が可能である。訪問看護師も往診についてもらったり、専門的な処置で傷などが完治している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	左記の通りに支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換には対応しているが、早期退院等の分野には手が出せない。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	左記の通りに実践できるように努めている。	敷地内に新しく開設した系列施設のナーシングホームに2名の方が転居され、家族にも喜ばれている。今後も本人や家族の意向を確かめながら、「終の棲家」としての機能を果たせるよう研修に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が応急手当ができるかは不安なところである。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難所等については把握しているが、災時に即座に移動できるかは疑問だ。	今年度2回目の避難訓練を予定している。指定されている避難所、経路は確認しているが、入居者にとってどうかの視点で、必要な備蓄の検討とともに進めていきたいと管理者は話している。	備蓄台帳の整備をされ、避難箇所の点検や整備のため地域の防災の拠点作りを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	左記の通りに対応している。	「○○さん」と苗字での呼びかけに意思の疎通の困難な入居者からも返事があったり、入居者同士で「△△ちゃん」と呼び合う方もある。食事以外は居室で寝てばかりの方もレクレーションに誘うと、最近リビングで座って過ごすようになっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	左記のように実践できるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	左記の通りに支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なかなか難しい。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	アウトソーシングのためできていない。	最近メニューに追加された麺類は入居者に好評で、調査日の肉うどんも入居者全員が完食している。うどんを短めに切ったり、刻んでスプーンで食べたり、誤嚥の危険のある方は職員が適切なとろみをつけたり、食べやすい器具の工夫をしていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	左記の通りに支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	左記の通りに実践している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	左記の通りに実践している。	立位が不安定であるが、羞恥心のためトイレ使用時連絡をしてもらえず失禁を隠した新規入居者の椅子に家族の同意を得て鈴をつけさせてもらっている。動きを察知した支援で常時トイレ介助をさせてもらえるまでになり、失禁も改善している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	左記の通りに取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	左記のようにには実践できていない。	少なくとも週2回は入浴できるよう支援している。退職や欠勤がなくなり業務時間に余裕ができ、その日のうちに入居者の思いにあわせて入浴介助している。中には二人介助で行うこともある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	左記の通りに支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	左記の通りに実践している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	左記のようにには実践できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩程度は対応しているが、外出の要望に対応していくのは難しい。	ホームの駐車場で見学した航空ショーは、みんなでわいわい楽しく屋外で過ごしている。家族会では駐車場でバーベキューを行ったり、桜の季節は通りの桜並木の見物を計画するなど、現在歩行可能な人は5, 6名で全員で外出するのは厳しいが、外気に触れる機会を設けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所で管理している。使用時は、お渡ししている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	左記のような要望はない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記の通りに実践している。	桜の季節が待ち遠しい中、リビングの大きな窓ガラスには満開の桜の木が、廊下の壁や窓ガラスにはピンクの花が飾られている。テレビ前のソファや食卓のテーブルで寛ぎながら、馴染みの歌が流れると口ずさむ入居者もある。食卓の両側の洗面台の大きな鏡がひろがりを感じさせ、空調や換気に配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	左記の通りに実践している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記の通りに実践している。	入居者の写真や花など描かれた表札が入り口の壁にかけられ、引き戸を開けると居室には窓から明るい陽光が入っている。個々の入居者の動きに合わせてベッドが配置され、馴染みの筆筒には衣類などが整理され、職員たちに送られた誕生日の写真つきの飾りや孫の写真が壁に飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	左記の通りに実践している。		